

『日本人の膵β細胞を護る治療を目指して』

糖尿病治療において良好な血糖コントロールを持続させるには、膵β細胞の機能と細胞量の保持が重要である。しかし、糖尿病と診断されたときには、既に多くの患者で膵β細胞は障害を受けているため、早期に病態に応じた適切な介入が必要である。そこで、今回は食後高血糖とインスリン抵抗性の点から、日本人糖尿病患者の病態に応じた治療について述べたい。



第53回日本糖尿病学会年次学術集会ランチョンセミナー01

2010年5月27日(木) 12:30~13:20

第1・2会場

ホテルグランヴィア岡山 4F フェニックス

日本人の膵β細胞を 護る治療を目指して

● 座長 **谷澤 幸生** 先生
山口大学大学院医学系研究科 病態制御内科学

● 演者 **弘世 貴久** 先生
順天堂大学医学部 内科学・代謝内分泌

インスリン分泌パターンを 見据えた食後高血糖の治療

● 演者 **前川 聡** 先生
滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病腎臓神経内科

インスリン抵抗性の改善が もたらす役割

本ランチョンセミナーは予約制でございます。
予約をお済みの方から優先的にご入場いただけます。詳細は当日ご確認ください。

共催：第53回日本糖尿病学会年次学術集会 / キッセイ薬品工業株式会社 / 武田薬品工業株式会社